

めぐみイエス・キリスト教会

2019年8月25日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第470号」



2019年標題聖句

第Ⅱ ペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年8月25日 第四主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌325 「歌いつつ歩まん」 p. 515

【交読文】 No.40 詩篇第126篇 p. 911

【賛美Ⅱ】 新聖歌339 「めぐみの高き嶺」 p. 538

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.7 「私の十字架」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書19章1節～5節(新約p. 201上段)

【祈 禱】

【説 教】 《さあ、この人です。》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165 「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書19章1節～5節】

19:1 そこで、ピラトはイエスを捕えて、むち打ちにした。

19:2 また、兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫色の着物を着せた。

19:3 彼らは、イエスに近寄っては、「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」と言い、またイエスの顔を平手で打った。

19:4 ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。「よく聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということを、あなたがたに知らせるためです。」

19:5 それでイエスは、いばらの冠と紫色の着物を着けて、出て来られた。するとピラトは彼らに「さあ、この人です。」と言った。

●ポイント1. なぜピラトは、主イエスをむち打ちにしたのか？

※マタイの福音書20章18節～19節「3度目の受難予告」(新約p.36下段)

「さあ、これから、私たちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは人の子を死刑に定めます。そして、あざけり、むち打ち、十字架につけるため、異邦人に引き渡します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」

※イザヤ書53章5節「メシヤの受難預言」(旧約p.1114下段)

53:5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

●ポイント2. 「あの人に何の罪も見られない」こととは？

※第I ペテロ2章22節～23節「主イエス様の人生」(新約p.418上段)

2:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。

2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。

●ポイント3. 「さあ、この人です。」の意味は？

※イザヤ書53章1節～3節「見とれるような姿もなく」(旧約p.1114上段)

53:1 私たちの聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕は、だれに現われたのか。

53:2 彼は主の前に若枝のように芽生え、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。

53:3 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。

※ヘブル人への手紙12章2節「目を離さないでいなさい」(新約p.404)

12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

◎先週のメッセージの概要【釈放するならわしとは？】

《ヨハネは、ピラトによる最終(第三回政治)裁判の場面を、短く書き記しています。それは三つの共観福音書に詳しく書かれてあるからです。

マルコでは、『ところでピラトは、その祭りには、人々の願う囚人をひとりだけ赦免するのを例としていた。』と書かれています。

これは、ピラトがエルサレム総督に赴任した際に、思いついたことで、少しでもユダヤ人に気に入られようとしてやったことですが、もう一つの理由は、「過越の祭」が一番暴動が起きやすく、あえてこの時に、十字架刑による死刑を実施していたことは、「見せしめ」と言う観点からも、考えられることです。

ところで、「十字架刑」とは、ローマ帝国に対する反逆者に執行される最も残酷な死刑であったのです。どうしてピラトは、「過越の祭」に『人々の願う囚人をひとりだけ赦免する』ことを、思いついたのでしょうか。

ユダヤ人の男子は「モーセ五書」をすべて暗誦していますから、そこから何らかのヒントを得たことは、間違いありません。そして最もその可能性が高いのが、大祭司アロンによる「スケープゴート」(アザゼル)のことです。

レビ記は説明します。『アロンは二頭のやぎの為にくじを引き、一つのくじは主の為、一つのくじはアザゼルの為とする。アロンは、主のくじに当たったやぎをささげて、それを罪の為のいけにえとする。アザゼルの為のくじが当たったやぎは、主の前に生きたままで立たせておかなければならない。これは、それによって贖いをする為に、アザゼルとして荒野に放つ為である。』と。

これがどのようなことなのか、様々な解釈が試みられていますが、原語のヘブル語は、アーザル(除去する)の強い意味の語で、「全き除去」「罪の全き赦し」の意味にとる方が、このやぎの持つ役割から妥当とされています。

つまり、一頭のやぎは生け贄として犠牲になるのですが、もう一頭は、そのやぎによって罪をアーザル(除去され)「罪の全き赦し」を得て、自由にされ、解放されると言う意味です。真に、主イエス様の身代わりの十字架があつてこそ、私たちは罪赦され、解放され、そして自由にされたのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は9月1日です。通常通り、行ないます。また次回「聖書の学びと祈り会」は、8月28日(水)に行ないます。鈴木牧師は9月2日(月)～4日(水)まで東京神学校長崎研修に参加します。4日(水)の祈り会はお休みします。